



Search. Observe. Protect.

オブザーバビリティ： 組織のデジタルトランスフォーメーションを成功に導くための戦略に 欠かせない重要なビジネスイニシアチブ

概要

企業と顧客のかかわり方は、以前に比べて大きく変わりました。オンラインでのやり取りや対応が増えたことで、企業はサービスや商品を顧客に効果的に提供する方法やビジネスの成長のあり方を見直す必要に迫られています。高度にスケーラブルなクラウドインフラやクラウドネイティブアプリケーションの登場に伴い、これらの革新的なテクノロジーを導入し、使いこなすことが、首脳陣の最優先課題になっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大に背中を押される形で、どの業界でもデジタルトランスフォーメーションへの取り組みが加速しています。企業は準備も整わないまま急速な変革を迫られており、その急激な変化は、顧客向けか社内向けかを問わず企業が提供するすべてのデジタルエクスペリエンスに及んでいます。デジタルエクスペリエンスへの依存が強まったことで、サイロ化され死角を抱えている従来型監視ツールの再検討を余儀なくされた企業は、より最新型のアプローチを検討し始めています。それが、戦略的なビジネスイニシアチブとしてのオブザーバビリティの実装です。

オブザーバビリティで解決できる主要なビジネス課題



開発者、DevOps、
SREの生産性



高い信頼性



コストパフォーマンス
の最適化



クラウドネイティブアプリ
とモノリシックアプリ
の一元管理



迅速な復旧



リリースや運用に関する
コストの最小化

出典：EMA

デジタルトランスフォーメーションの達成には新たなアプローチが不可欠

最近行われたMIT Sloanの調査によると、「すばやく後追いつく」ことはもはや有効な戦略ではなくなっており、他社と同じスピードで進化してこなかった企業は大きく差を付けられていることが明らかになりました。このような新たなデジタル時代の到来は、顧客や従業員が企業とかかわる際に期待する内容をも大きく変化させています。企業は、アプリケーションのパフォーマンス向上や顧客を満足させる有意義なエクスペリエンスの提供にプロアクティブに取り組むことが求められています。

ビジネスの変革は、ハイブリッドクラウドをはじめとするテクノロジーの導入を加速し、足りない部分を分散型アプリケーションの開発で補うことを抜きにしては実現し得ません。そのため、分散型の最新アプリケーションに向けたサービスを非同期に開発するケースが急速に増えています。しかし結果として、チームや個人が本番環境にあるすべての依存関係を完全には把握できないという事態を招いています。企業内で生成されるテレメトリデータ（メトリック、ログ、トレース）の量は指数関数的に増えており、しかもそれらは複数のツールにばらばらに格納されていることが多いため、開発チームや運用チームは問題のトリアージに多くの時間を費やさなければならなくなっています。アプリケーションのパフォーマンスに関する問題をさまざまなツールやデータを使って調査するとなると、平均検出時間（MTTD）と平均復旧時間（MTTR）は長くなり、開発者の生産性は低下し、イノベーションの速度は落ちてしまいます。

そのため、企業には、増え続けるテレメトリデータを収集、分析し、相関付けるための単一のプラットフォームと、機械学習を利用して異常を検出、特定する機能が必要になっています。適切なオブザーバビリティソリューションなら、有益なインサイトを生成し、ビジネスと運用のKPIを関連付けることができます。チームは、すべてのテレメトリデータを分析し、相関付けて、疑問への回答を見つけられます。長期的には、イノベーションの高速化や顧客向けのデジタルエクスペリエンスの向上といった成果を達成できます。

ソフトウェアリリースでのオブザーバビリティの成果



70%
高速化



4倍
機能が豊富に

出典：EMA

オブザーバビリティをスピーディに導入して運用効率の向上を実現

Enterprise Management Associates (EMA) グループが最近実施した調査によると、オブザーバビリティは2021年におけるDevOpsチームの最優先課題であり、ビジネスクリティカルなインシタチブとして取り組む企業が急速に増えています。このレポートによれば、運用チームと開発チームは業務時間の50%を問題の根本原因究明に費やしています。一方で、オブザーバビリティに力を入れているチームは、機能が4倍も豊富な製品の開発を従来の70%の期間で達成し、しかも製品のリリーススピードを高く維持することができています。また、EMAの調査から、CNCF (Cloud Native Computing Foundation) ではオブザーバビリティに関する全社的な取り組みがコミュニティの関心事リストの上位にランキングしていることも明らかになりました。オブザーバビリティを導入すれば、面倒な手作業を自動化し、データへの理解を深めて実用的なインサイトを生み出し、アプリケーション開発の期間を短縮できるため、チームは革新性を高め、強い競争力を手に入れることができます。

データ、開発者向けツールセット、クラウドサービスが急激に増えていることで、成功を目指す企業は複数の要因を考慮しなければならなくなっています。最新のテクノロジーを活用するには、単にテクノロジーを選択するだけでは足りません。新しいスキルセットを開発し、プロセスを採用、進化させる必要があります。チームは、プロビジョニング済みのデータセンターを利用するという限定的なアプローチから、水平方向にも垂直方向にもオンデマンドでスケールできるクラウドの世界へと、考え方を進化させなければなりません。ただし、クラウドの採用にあたって適切な計画を立てず、従来の方法論を適用すると、多額のコストが発生し、プロジェクトが頓挫してしまう可能性があります。さまざまなクラウド、ソフトウェアアーキテクチャーから選択する際にも、同じように、新たなスキルセット、多くの場合はそれぞれ独自のスキルセットを採用する必要が生じます。ソフトウェアが重視され、競争が激化している世界で、このような変革を成し遂げるのは、困難で複雑な取り組みです。これを実現するには、技術面の選択と併せて、適切な文化や思考プロセスも確立する必要があります。このような進化には、環境全体をエンドツーエンドで可視化できるオブザーバビリティが不可欠なのです。

アプリケーションのダウンタイムとパフォーマンス低下の原因トップ5



37%
変更



31%
コードのバグ



16%
移行



11%
セキュリティ



5%
アップグレード

出典：EMA

EMAによると、アプリケーションのダウンタイムやパフォーマンス低下を引き起こす原因の上位5つは、変更、コードのバグ、移行、セキュリティ、アップグレードです。

オブザーバビリティの導入は、企業にとって手を出しにくい目標に思えるかもしれませんが、一歩踏み出した企業は、運用面だけでなく、財務面やビジネス面でも結果が出ています。ソフトウェアアーキテクチャの複雑さは、クラウドでもオンプレミスでも、今後ますます深まっていくでしょう。アプリケーションが生成するデータも指数関数的に増えることが予想されますが、現時点のデータ量でもチームはすでに手一杯です。企業には、ニーズの拡大に合わせて拡張し、環境全体を余すところなく可視化し、顧客やビジネスに悪影響を及ぼす前に異常をプロアクティブに検出、特定できるソリューションが必要です。それが、オブザーバビリティなのです。

長期的な成功を収めるための鍵は、アプリケーション環境を自動化してインサイトを得ることができるかどうかと、顧客のデジタルエクスペリエンスを細部まで深く理解できるかどうかにあります。オブザーバビリティは、アプリケーションの詳細な可視化を実現し、組織がビジネスと運用のKPIを結びつけるのに役立つソリューションです。カスタマーエクスペリエンスファーストの文化を醸成し、オブザーバビリティの専門知識を身につけるのには時間がかかりますが、最高のデジタルエクスペリエンスを一貫してお客様に提供するための取り組みは、間違いなく費やす価値のある労力です。

オブザーバビリティについてさらに詳しくは、elastic.co/jp/observabilityをご覧ください。